デジタル版
2025年
12月04日号
Vol. 187

成岡マネジメントオフィス事務所通信

NMO OfficeLetter

藤井大丸建物リニューアル計画発表！

市内下京区の藤井大丸が建物の老朽化を理由に、来年5月の連休明けから取り壊し、リニューアル建て替え工事を行うことを発表した。完成は2030年としている。この間は、入居のテナントの大部分は付近の四条通り、富小路通りなどに分散し、営業を続ける。建て替え後も営業を継続し、事業の拡大を目指す。具体的な改装の計画や工事中の店舗運営の詳細は検討中で、後日改めて発表する。

＜解説＞京都人は藤井大丸が百貨店かという疑問はあるかもしれないが、業種としてはれっきとした百貨店だ。1870年代に初代創業者の藤井キクが呉服の行商を始めたことにルーツがある。1891年に藤井大丸呉服店を開店。1935年（昭和10年）に株式会社として法人化し、百貨店として事業を始めた。1969年に関西初のマクドナルドを出店し、京都では若者の待ち合わせ場所として有名になった。若者向けのファッションに特化し、大丸、高島屋などとは一線をひいた品揃え、ビジネスモデルとして長く京都人に愛された。京都では、永年デパート＝百貨店として、高島屋、大丸、丸物（後の近鉄、現在はヨドバシカメラ）、そしてこの藤井大丸がデパート4店として存在していた。その後、丸物はなくなり、京都駅の改築に伴い伊勢丹が進出。藤井大丸はアパレル専門店に特化した。河原町四条に阪急が百貨店として進出したが、経営がうまくいかず、その後丸井が経営を引き継いだがこれも頓挫。現在は家電店の専門店になっている。百貨店のビジネスモデル自体が行き詰まりをみせるなかで、藤井大丸は一貫してファッション、アパレルに特化した珍しい存在として、その価値は現在でも長く続いている。今回、改築リニューアルのため、約4年のブランクになるが、改築後どのようなコンセプトで再出発するのか非常に興味深い。京都市内では、ファッションに特化した集合テナントビルは、河原町通りに多く、BAL、SONYPLAZAなどがあるが、いずれもユニクロなどとファストファッションのビジネスモデルに押され気味だ。今回の藤井大丸の大型設備投資が、未来に向けたファッション、アパレル業界に新しい風を吹き込むのか、地元以外での注目の的だ。

BUSINESS MANAGEMENT&COORDINATION
株式会社成岡マネジメントオフィス
〒616-8104　京都市右京区太秦下刑部町170
プレサンスロジェ太秦天神川駅前613
TEL:075-366-6611　FAX:075-366-6100　info@nmo.ne.jp

Copyright (C) Naruoka Management Office. All rights reserved.